

松田正隆、山田せつ子、岩下徹らに師事。卒業後、松田正隆率いるマレイトの会に役者として出演。またダンサーとして北村成美、伊藤キム、京極朋彦、倉田翠、武道家の日野晃らの作品に出演。昨年、自身初のソロダンス作品「秋田愛憎」を地元秋田で発表。今後も積極的にソロ活動が続けていく予定。

仲谷 萌 NAKATANI Moe

展示参加・舞台出演
1989年生まれ、大阪府交野市出身。東住吉高等学校芸能文化科、京都造形芸術大学舞台芸術学科2011年卒業。現在、関西を拠点にフリーの役者として活動。

野淵杏子 NOBUCHI Kyoko

展示参加・舞台出演
1984年生まれ、京都府出身。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科2006年卒業。2004年より、KIKIKIKIKIKIの活動に参加。その後KIKIKIKIKIKIの活動と並行して、山田せつ子、伊藤キム、北村成美、荒木志珠、村川拓也の作品やデカルコ・マリィ企画にもダンサーとして参加。ソロとしても踊っている。

御厨 亮 MIKURIYA Ryo

展示参加・舞台出演
1986年生まれ、東京都出身。役者・パフォーマー。夕暮れ社弱男ユニット所属。近年の主な出演作品は、伊藤キムダンスプロジェクト『go-on 体の森をゆく』、Take a chance project029『結婚』『戯舞』(きたまり／KIKIKIKIKIKI)(共に2012年)、TPAM in Yokohama『戯舞』(きたまり／KIKIKIKIKIKI)、TPAM in Yokohama『エキストラ・カーテンコール』(ナデガタインスタントパーティー)(共に2013年)。

山田晃嗣 YAMADA Koshi

展示参加・舞台出演
1987年生まれ、大阪府出身。2010年京都造形芸術大学を卒業後、ドキュメント映像を主に制作しながら様々な企画に参加。現在、滋賀県信楽町在住。知的障がい者の福祉施設で働きながら、アートと生活と労働について調査中。

荒木優光 ARAKI Masamitsu

展示参加・舞台出演
1981年生まれ。山形県出身。音響作家。過去に音響による上演作品「@アッチ&コッチ〜N市からの呼び声」(2011)、「パブリックアドレス-音場2」(2013)や記録音楽シリーズ「横断の調べ」、視覚障害者の耳と風景に関する展示やフィールドコーディングCDなど、リスニングとその環境をめぐる作品を作る。映像やパフォーマンス作品への音参加も行う。バンドNEW MANUKEメンバー(アラキパラミツ) araki-masamitsu-paramiz.com

倉田 翠 KURATA Midori

企画主催・展示参加・舞台演出／出演
1987年生まれ、三重県出身。3歳よりクラシックバレエ、モダンバレエを始める。京都造形芸術大映像・舞台芸術学科2010年卒業。現在は京都を中心に、ダンサー、演出・振付家として活動。「すごいダンスin府庁」実行委員長。

小椋真吾 KOKAJI Shingo

Tシャツ制作
1991年生まれ、東京出身。京都造形芸術大学空間デザイン学科ファッションデザインコース4回生。主な展示に、『京阪神6大学合同発表展』(神戸ファッション美術館、2012年)、『Two_Two』展(gallery110、2013年)など。

佐藤健太郎 SATO Kentaro

展示参加・舞台出演
1978年生まれ、兵庫県姫路市出身。現在はフリーのダンサー。ソロ作品『犬』『ミューザー』、森川弘和とのデュエット『conductor』、David Wampachとの映像作品『FIRST SHOW』を発表。幅広い層へのワークショップにも力をいれている。

島 崇 SHIMA Takashi

展示参加・舞台出演
1981年生まれ、秋田県秋田市出身。京都造形芸術大学、映像・舞台芸術学科2009年卒業。在学時、

私は、他者との関係の中でしか「私」というものを認識できないと思っています。というか、色々考えた末に、そう決めました。

一人で居るなら、私は私として存在する必要がありません。その時、他者という私が、その相手から認識されている私なのであって、本当の自分とは何か、みたいなことは私が決めるべきことではないのです。だから、私が私としてここに居るためには、私を私に仕立ててくれる他者が必要なのです。

その関係というものが、日常的に、ごく普通に行われているというのは、ちょっと凄いです。私は舞台作品と関わることが多いのですが、例えばその舞台というもので、その即興性やスリリングさを作り出すのは、なかなかできないな、と思うのです。

日常に入り込んでいるその劇的な関係性を作品とすることはできないか。それで、この企画は始まっています。正直に言うと、色んなことが混ざっていて、短い文章では全然上手く伝えられないように思います。しかも文字にすると、簡単なことが、変に小難しい。だからやる、ということかもしれないのです。

では、何を見ればいいの？ ということです。当たり前のように通過している日常の中での関係というものに目を向ける。人はその中でどのように「自分」というものを定義付けているのか、また、関係における虚構と現実の区別のなされ方。今しゃべっている言葉の選択が本当に伝えたいことにあっているのか。それをどのようにジャッジしていけばよいのか。今回の出演者がこのことに共感しているとか、理解している、ということはまったくありません。相手が何を考えてるかなんて絶対わからない、という「普通」の状態と同じです。私がこいうことを伝え、彼らに参加して欲しいのだとお願いし、四日間拘束させてもらう、そのあと、この作品との関わり方は各自に任せています。その「どうしようかな」という感じは、おそらく、お客様と対等であると思うのです。

企画 倉田 翠
企画内では、倉田は展示物に展示のルールを与え、舞台の時間を演出します。そして、それらに参加し出演する8人とともに、展示と舞台のシステムを4日間こなしていきます。ご来場いただいたみなさまには、会場に居続ける8人と、関わっていただければと思います。Tシャツについては、小椋真吾に参加をお願いし、この出来事を留めるための形をデザインしていただきました。本企画は、1日終了ごと、タンブラー (http://watashi-saki.tumblr.com/)に、展示や舞台について、紹介していきます。
企画運営 宇崎晴香

[展 示]
2014年2月27日(木)・28日(金)・3月1日(土)・2日(日) 11:00-20:00 *最終日は18:00まで
会期中、下記の時間帯のみ「舞台」の時間として有料にて公演をおこないます。公演時間中には展示のみをご覧くださいことは出来ません。その他の時間は無料にて「展示」をご覧くださいます。
[舞 台]
2月28日(金) 18時—19時20分
3月01日(土) 13時—14時20分 18時—19時20分
3月02日(日) 13時—14時20分
料金 前売:1,800円、当日:2,000円 (舞台に関するお問合せ・ご予約はスタッフまでお申し付けください)

本企画は 2月27日から 3月2日までの 4日間の会期中、8名の出演者が会場に滞在し続け、そこに生じる人と人との「関係」を作品として提示する身体展示企画です。

2010年、2011年と過去2度に渡って開催されてきた企画の第3弾となる今回は、出演者がギャラリー空間に滞在し、遊んだりくつろいだり、居合わせた観客と会話をしたかと思えば時に踊りだすなど予測不可能な「身体」を示し、そこに鑑賞者(他者)が関わる状況を生みだす「展示」と、観客とパフォーマーの関係を保ちつつ、「他者」と「わたし」を巡る問いを示す「舞台」の二つの構造によって展開されます。